

タカ目 タカ科  
チュウヒ



2008年, 仏沼, 宮彰男

青森県：B 環境省：絶滅危惧ⅠB類

### ■形態的特徴

全長雄48cm、雌58cm。翼開長113～137cm。トビより小さく雄は頭部から背は黒色または灰褐色で腰が白い。雌は全体が褐色であり特徴がない。体色は個体変異が多い。

### ■分布等の概要

県内では日本海側では屏風山地域や岩木川下流部のヨシ原、太平洋側では小川原湖を中心とする湖沼群・湿地のヨシ原で少数が繁殖している。一般にススキやヨシの株間に営巣するが、北海道ではササ原にも営巣する。湖沼・河川・ヨシ原・耕地の上を翼をV字形にして飛び、ネズミ・小鳥・カエル・昆虫などを食べる。天敵にイタチがある。

(小山信行)

チドリ目 シギ科  
オオジシギ



2007年, 仏沼, 宮彰男

青森県：B 環境省：準絶滅危惧

### ■形態的特徴

全長30cm、翼開長49cm。まっすぐで長くちばし、頭部の黄白色の頭中央線・眉線・目の下の線と黒色の頭側線・過眼線・ほおの線が目立ち、背と肩羽は褐色の地に黒い斑紋がある。

### ■分布等の概要

県内では夏鳥として渡来し、各地の農耕地や草原、牧草地に生息、繁殖している。繁殖期には飛びながら“ズビヤーク、ズビヤーク”と鳴き、“ガガガガ”と尾羽で風切音を出す。近年、岩木山麓原野では畑地化が進み、出現数が激減している。

(小山信行)

チドリ目 ツバメチドリ科  
ツバメチドリ



2007年, 仏沼, 宮彰男

青森県：B 環境省：絶滅危惧Ⅱ類

### ■形態的特徴

全長26cm、翼開長64cm。飛んだ時尾が二股に分かれ、ツバメを大きくしたような形をしている。夏羽では上面が暗灰褐色、のどがクリーム色で黒線の縁どりがある。くちばしは黒く基部が赤い。冬羽ではのどのもようたくちばしの赤が不明瞭になる。幼鳥は冬羽に似る。

### ■分布等の概要

日本では主に旅鳥として全国に少数が渡来し、畑・埋立地・川原・海岸など開けた場所に生息する。茨城・静岡・愛知・島根・福岡・宮崎などで局地的な繁殖記録がある。県内ではまれな旅鳥として太平洋岸の湖沼畔や海岸などで観察されている。

(小山信行)

フクロウ目 フクロウ科

## オオコノハズク



1982年, 平川市(旧平賀町), 小山信行

青森県：B 環境省：該当なし

### ■形態的特徴

全長 24～26cm、翼開長 54～60cm。体色は褐色または灰褐色で羽角がある。腹部には黒色の複雑で細かい虫食い斑がある。後頸部に灰白色の斑がある。目は橙色。飛翔時、翼の下面は淡褐色で風切に黒い横斑があり、初列風切の外側は暗色である。

### ■分布等の概要

社寺林など平地から山地の暗い林に生息し個体数は少ない。留鳥で山林・社寺林の樹洞で繁殖するが人目につくことはまれである。冬期は人里・耕地付近の林に生息し、人家や古い作業小屋に入り込むこともある。

(小山信行)

スズメ目 ホオジロ科

## コジュリン



2007年, 仏沼, 宮彰男

青森県：B 環境省：絶滅危惧Ⅱ類

### ■形態的特徴

全長 15cm。雄の夏羽根では頭部からのどは黒く、背は赤褐色で黒い縦じま模様がある。腹は白くて、腰は赤褐色をしている。雌は頭部が黒褐色でほほが淡褐色、ほほの上下にある線はバフ色、のどは白く黒い顎線がある。雄の冬羽は頭の黒がなくなり、雌の夏羽に似る。

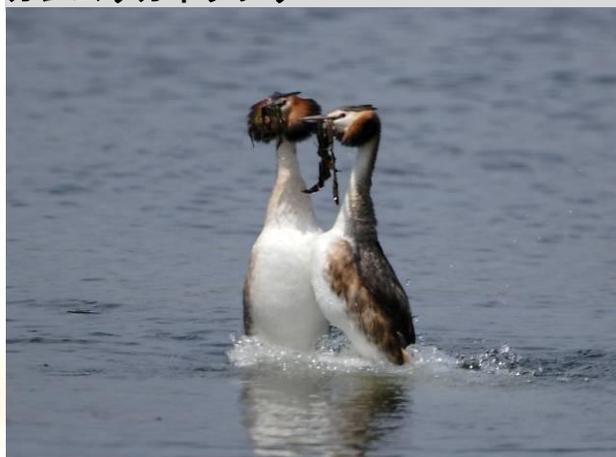
### ■分布等の概要

県内では岩木川下流部、山田川中流部、鳥谷川下流部、屏風山地域の草原、小川原湖周辺の湿地・草地などに生息する。繁殖期には植物の高いところに止まり、“ピーツピーツクチュピー”と涼しい声でさえずり、昆虫や植物の種子などを食べている。

(小山信行)

カイツブリ目 カイツブリ科

## カンムリカイツブリ



2007年, 小川原湖, 宮彰男

(注: 写真はつがい)

青森県：C 環境省：LP(青森県)

### ■形態的特徴

全長 56cm、翼開長 85cm、首が長く前面が白、日本最大のカイツブリ。目先に口ばしと結ぶ黒い線。夏羽は黒い冠羽と顔に赤褐色と先端の黒い飾り羽が特徴。冬羽では顔に飾り羽がなく、首前方の白と首後方の黒が目立つ。

### ■分布等の概要

日本では主に冬鳥として九州以北の湖沼、河川、海上などに渡来し、北日本の一部で繁殖している。県内では各地で繁殖し、特に津軽地方の湖沼、河川で個体数増加、生息分布域の拡大が著しい。日露渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定指定種。

(小山信行)

カモ目 カモ科

## コクガン



2007年, 八戸市, 宮彰男

青森県：C 環境省：絶滅危惧Ⅱ類

### ■形態的特徴

全長 61cm、翼開長 115cm、小形のガンで全体が黒い。白い首輪、腹部側面と下尾筒の白が特徴。

### ■分布等の概要

県内では陸奥湾のむつ市大湊海岸・青森市原別海岸・横浜町横浜海岸、八戸市種差海岸が主な生息地である。津軽半島上磯海岸、下北半島大畑海岸にも少数渡来し、日本海岸にも出現するがまれである。主として海上、海磯、海岸の荒磯、海岸の浅瀬に生息し、時に河川、湖沼や干潟などに飛来する。国の天然記念物。日米渡り鳥等保護条約・日露渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定指定種。

(小山信行)

フクロウ目 フクロウ科

## トラフズク



1995年, 弘前市, 小山信行

青森県：C 環境省：該当なし

### ■形態的特徴

全長 35~40cm、翼開長 91~102cm。耳の形をした羽角が長く、両目の内側に額からくちばしにかけて白色の線が目立ち、一見リスを思わせる容貌。目は橙色である。

### ■分布等の概要

県内では津軽地方に比較的多く、人里近くの林、社寺林に生息・繁殖している。巣はカラス、トビの古巣を利用することが多く、樹の穴にも営巣する。成鳥は繁殖期に“オーオー”と鳴き、巣立ち間もない幼鳥は夜通し“キーキー”とブランコがきむように鳴く。餌はネズミを主食とし小鳥、昆虫も食べる。日露渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定指定種である。

(小山信行)

スズメ目 カラス科

## ホシガラス



2006年, 東通村, 宮彰男

青森県：C 環境省：該当なし

### ■形態的特徴

全長 35cm、翼開長 60cm、黒褐色に白い斑点が特徴。尾羽の先が白い。

### ■分布等の概要

県内では下北半島・津軽半島・白神山地・岩木山・八甲田山系など各地に生息しているが個体数は少ない。夏は標高の高い場所に多く、秋、冬は標高の低い林地にも標行する。県民の森、梵珠山では秋ブナの実を食べる小群が出現する。春と秋、小泊岬から竜飛崎にかけ群で移動するものがあり、北海道との渡りの可能性もある。移動中の個体は林地ばかりでなく、崖・岩場・海岸などにも出現する。

(小山信行)

## 爬虫類

トカゲ目 ヘビ科

### タカチホヘビ



2006年, 西目屋村, 向山満

青森県：A 環境省：該当なし

#### ■形態的特徴

全長 20~40cm の小型種である。鱗間の皮膚が露出しているなどの原始的な特徴を備えている。幼蛇は暗褐色、成蛇は明るい黄土色になる。背中に黒い縦線が目立つ。

#### ■分布等の概要

県内では長い間深浦町十二湖からの記録しかなかったが、最近になって三戸町、白神山、弘前市、西目屋村、青森市、深浦町から記録されている。夜行性で、地中でミズなどを食べている。

(向山満)

## 両生類

カエル目 アオガエル科

### カジカガエル



2009年, 弘前市, 向山満

青森県：D 環境省：該当なし

#### ■形態的特徴

日本固有種で本県が分布の北限。体長は雄が4cm くらい、雌が6cm くらいである。産卵は河川流水の石の下で、流水中に産卵するカエル類は本県唯一である。体色は灰褐色で不規則な暗色斑紋がある。

#### ■分布等の概要

本県では河川上流部の溪流に広く分布していたが、近年は生息域がより上流部に限定されつつある。しかし、その実状は調べられていない。また、本県における産卵期以外の生態知見はほとんどなく、精査が必要である。

(向山満)

## 汽水・淡水魚類

コイ目 コイ科

### シナイモツゴ



2006年, 青森市, 五十嵐正俊

青森県：A 環境省：絶滅危惧 I A類

#### ■形態的特徴

紡錘形の体を持つ、最大でも全長8cm 程度の小魚である。同属のモツゴに酷似するが、体全体がもっとズングリしている。モツゴとの決定的な違いは、側線が不完全なことである。繁殖期にオスは体色が黒くなり、頭部には追星を生じる。

#### ■分布等の概要

県内では現在は青森平野でのみ生息が知られており、主に山地に近い溜池などの止水に生息し、雑食性である。繁殖の際にオスは石など硬いものの周辺を縄張りとして守り、メスはこの表面に産卵する。モツゴとの雑種は不妊となる。

(佐原雄二)

コイ目 コイ科  
ヤリタナゴ



2002年, つがる市(旧木造町), 佐原雄二

青森県：A 環境省：準絶滅危惧

■形態的特徴

最大でも全長10cm程度の小魚である。日本産タナゴ類の中では体高の低いほうである。1対のひげをもつ。繁殖期にはオスの前半部が赤みを帯び、尻ビレの外縁も赤くなる一方、腹部は黒くなる。

■分布等の概要

国内では北海道と南九州を除く各地に分布するが、県内では津軽平野にのみ生息が確認されている。流れの緩い河川や溜池にすむ。繁殖の際にはマツカサガイなど二枚貝を必要とする。

(佐原雄二)

カサゴ目 カジカ科  
ハナカジカ



1984年, 田子町, 向山満

青森県：A 環境省LP：(東北地方)

■形態的特徴

全長15cmほどになる。体色は褐色で斑紋がある。腹ビレには数本の黒い横斑を持つ。

■分布等の概要

日本固有種で、北海道と北東北の一部に住み、河川中で一生を過ごす。県内での分布はごく狭く、馬淵川水系の一部の上流域に限られる。水生昆虫など動物質のエサをとる。

(佐原雄二)

ダツ目 メダカ科  
メダカ北日本集団



1999年, 青森市, 佐原雄二

青森県：B 環境省：絶滅危惧Ⅱ類

■形態的特徴

最大でも全長4cmほどの小魚。背中側が褐色、腹側が銀白色で、上から見ると背中黒いスジが目立つ。

■分布等の概要

メダカの国内での分布は本州以南であるが、北日本集団の分布は本県から日本海側を経て若狭湾までである。平地の水田・水路、溜池、河川の緩流域などに生息し、水面を群泳する。雑食性で動植物プランクトンや小型底生動物などを食べる。

(佐原雄二)

トゲウオ目 トゲウオ科

**トミヨ属淡水型**



2006年, 弘前市(旧岩木町), 齊藤仁咲

青森県:B 環境省:LP(本州)

**■形態的特徴**

全長5cm程度。背中にノコギリの歯状のトゲが並ぶ。

**■分布等の概要**

北半球の寒冷地に広く分布する。本県での分布は比較的広いが、津軽平野側での生息地はあまり多くないようである。池や河川緩流域に生息する。繁殖期にオスの体色は黒くなり、水草の間に小鳥の巣のような巣を造って、メスが産卵した後も孵化するまで保護する。

(佐原雄二)

**昆虫類**

トンボ目 エゾトンボ科

**トラフトンボ**



2000年, 鹿児島県, 奈良岡弘治

青森県ランク:EX 環境省ランク:該当なし

**■形態的特徴**

体長:50~56mm。黒色の地に黄色の虎斑模様がある。腹側の黄色斑は短く各節の長さの約1/2。雌は翅の前縁に黒褐色条があるが、縮小している個体もある。

**■分布等の概要**

本州・四国・九州に分布するが東北地方では少ない。平地や丘陵地の池・沼に生息し、成虫は5~6月に出現する。成熟雄は池・沼でテリトリー飛翔をして、産卵に来た雌を捉えて交尾する。交尾は水上を飛びながら行い、5分程度である。交尾を解いた雌は岸辺の植物に静止して、ゼラチンの細長い卵紐を放出する。雌はその塊を腹端に付けて飛びたち、水面を打って浮遊植物に付着させる。

(奈良岡弘治)

トンボ目 トンボ科

**ムツアカネ**



2000年, 北海道, 奈良岡弘治

青森県ランク:EX 環境省ランク:該当なし

**■形態的特徴**

体長:30~33mm。未熟成虫は黄色の地に黒色斑を持つ。アキアカネに似るが、胸側の2本の黒条が融合して太くなるなど、全体が黒っぽい。雄では成熟すると全体が黒化する。雌の産卵弁は第9腹節半ばに達し、下方に突出する。

**■分布等の概要**

日当たりの良い湿原に生息し、成虫は7月下旬~10月上旬に見られる。卵越冬で、幼虫は5月下旬から孵化する。幼虫期間は50~60日である。羽化は日中行われ、7月下旬~9月上旬まで続く。生殖行動は10~15時に盛んである。交尾は12~15分を要し、連結で打泥、または打水産卵をする。

(奈良岡弘治)